

私たちの業績結果です。

【主な事業内容】

当行は、預金業務、貸出業務、内国為替業務、外国為替業務、有価証券投資業務、国債等窓販業務及び信託業務等を行っております。

【金融経済環境】

平成22年度における国内経済は、国の経済対策効果等により、前半は個人消費関連が持ち直し、企業収益の改善が図られました。しかし、後半にはデフレの影響や厳しい雇用情勢など悪化懸念が依然残るなか、エコカー補助金制度終了によって消費マインドが鈍化し、国内景気は足踏み状態が続いています。加えて、東日本大震災による影響への不安など、先行きの不透明感が増しています。

県内景況は、公共工事請負金額が大型案件の反

動減により前年度を下回ったものの、個人消費はエコポイント制度や地デジ移行に伴う家電売上の増加などにより改善の動きがみられ、観光関連は高校総体開催などの効果により前年度を上回りました。企業の倒産状況においても、金融円滑化法の効果等により倒産件数、負債総額ともに前年度を下回るなど、全体的には停滞感がやわらく状況となりました。

【平成22年度の業績】

このような金融経済環境のもと、当年度は「中期経営計画2009～2010」の最終年度として経営戦略に基づく各施策の着実な実行により顧客サービスの充実と業績向上に努めた結果、業績は次のとおりとなりました。

●主な経営指標などの推移(単体)

(単位：百万円)

		平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
経常収益		40,992	40,729	39,786	39,757	40,318
うち信託報酬		521	548	464	321	326
経常利益		11,935	10,668	4,434	13,329	9,519
当期純利益		6,380	5,824	2,890	8,595	5,050
資本金		22,725	22,725	22,725	22,725	22,725
発行済株式総数	千株	21,815	21,815	21,815	21,815	21,400
純資産額		100,142	93,667	95,216	105,781	107,365
総資産額		1,358,389	1,373,477	1,438,072	1,595,354	1,726,148
預金残高		1,217,940	1,229,323	1,302,807	1,436,822	1,539,640
貸出金残高		1,022,948	1,077,065	1,114,651	1,138,622	1,141,175
有価証券残高		271,965	228,391	229,566	353,597	446,605
1株当たり純資産額	円	4,649.82	4,380.17	4,485.23	5,054.69	5,165.69
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	円 (円)	50.00 (25.00)	60.00 (30.00)	60.00 (30.00)	65.00 (32.50)	65.00 (32.50)
1株当たり当期純利益金額	円	294.79	270.97	135.41	408.05	242.27
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	円	—	—	—	—	242.14
自己資本比率	%	7.37	6.82	6.62	6.63	6.21
単体自己資本比率(国内基準)	%	11.07	11.38	11.35	12.39	12.73
自己資本利益率	%	6.58	6.01	3.06	8.55	4.74
株価収益率	倍	14.79	13.39	22.22	9.33	13.99
配当性向	%	16.96	22.14	44.30	15.92	26.82
従業員数 [外、平均臨時従業員数]	人	1,030 [211]	1,024 [241]	1,049 [438]	1,053 [412]	1,063 [452]
信託財産額		27,399	26,955	22,932	27,109	53,223
信託勘定貸出金残高		18,602	14,922	11,750	9,870	8,152

- [注] 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2. 第80期(平成23年3月)中間配当についての取締役会決議は平成22年11月12日に行いました。
3. 「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」(以下、「1株当たり情報」という。)の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益金額」に関する会計基準(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。
4. 第79期(平成22年3月)以前の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。
5. 自己資本比率は、(期末純資産の部合計－期末新株予約権)を期末資産の部の合計で除して算出しております。
6. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。
7. 平均臨時従業員数は、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含め、派遣社員を除いて記載しております。
8. 平均臨時従業員数は、第79期(平成22年3月)から、当行の所定労働時間に換算して算出しております。

●主な経営指標などの推移(連結)

(単位:百万円)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
連結経常収益		57,143	55,795	54,499	54,609	54,229
うち連結信託報酬		521	548	464	321	326
連結経常利益		13,195	11,947	4,991	15,019	11,203
連結当期純利益		6,695	6,737	2,797	9,567	5,833
連結包括利益		—	—	—	—	4,675
連結純資産額		103,771	98,066	99,471	111,378	114,250
連結総資産額		1,375,310	1,393,358	1,454,095	1,610,665	1,743,642
1株当たり純資産額	円	4,703.75	4,477.08	4,578.40	5,195.69	5,345.37
1株当たり当期純利益金額	円	309.37	313.43	131.02	454.19	279.82
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	円	—	—	—	—	279.67
自己資本比率	%	7.36	6.87	6.68	6.75	6.36
連結自己資本比率(国内基準)	%	11.32	11.61	11.61	12.76	13.24
連結自己資本利益率	%	6.84	6.83	2.89	9.29	5.30
連結株価収益率	倍	14.09	11.58	22.97	8.38	12.11
営業活動によるキャッシュ・フロー		15,129	△11,548	12,661	118,942	102,896
投資活動によるキャッシュ・フロー		△12,687	16,190	△9,546	△115,522	△97,750
財務活動によるキャッシュ・フロー		△1,806	△1,789	△1,830	△2,330	△1,846
現金及び現金同等物の期末残高		28,919	31,837	33,105	34,183	37,438
従業員数	人	1,409	1,401	1,372	1,353	1,354
[外、平均臨時従業員数]		[661]	[703]	[571]	[525]	[562]
信託財産額		27,399	26,955	22,932	27,109	53,223

[注] 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」(以下、「1株当たり情報」という。)の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。

3. 平成21年度以前の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないので記載しておりません。

4. 自己資本比率は、(期末純資産の部合計－期末新株予約権－期末少数株主持分)を期末資産の部の合計で除して算出しております。

5. 連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。

6. 平均臨時従業員数は、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含め、派遣社員を除いて記載しております。

7. 平均臨時従業員数は、平成21年度から、銀行業の所定労働時間に換算して算出しております。

8. 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく、信託業務に係る信託財産額を記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は当行1社です。

業績ハイライト

◆預金

個人預金キャンペーンにおいて、「大口定期預金」、「ATMde定期」、「金銭信託『HAPPY NEW MONEYキャンペーン』」及び「懸賞金付定期預金(Let's定期)」等を主力商品として個人預金の増強に努めたほか、法人預金についても「SR(ストロングリレーション)活動」に注力し、資金トレースに努めた結果、銀行・信託勘定合計で前年度末比1,289億円増加の1兆5,928億円となりました。

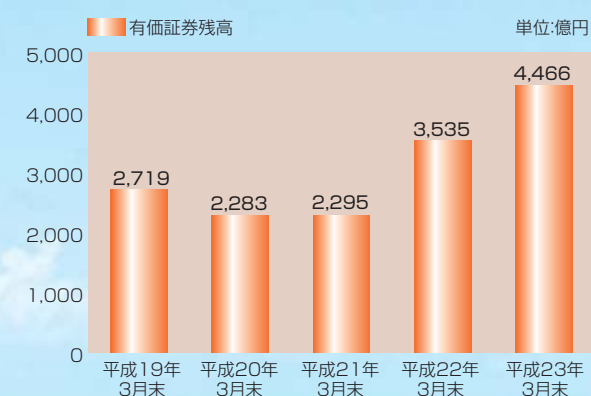
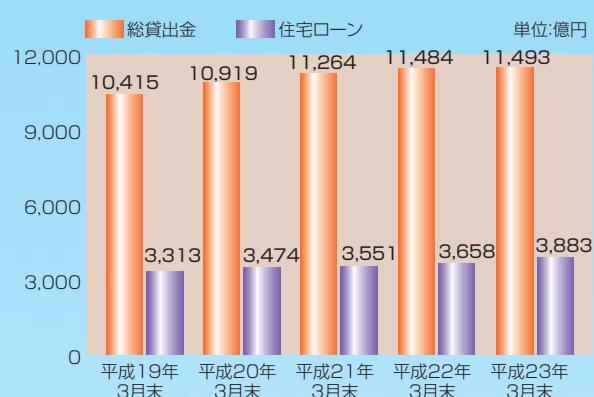
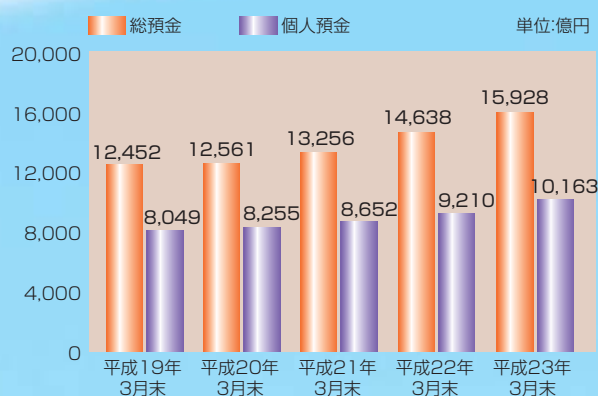
◆貸出金

運転資金や設備資金の需要の減少により事業性貸出等が減少したものの、ローンFPステーションを中心とした営業強化により、住宅ローン及び各種個人ローンが堅調に増加したことから、銀行・信託勘定合計で前年度末比8億円増加の1兆1,493億円となりました。

◆有価証券・外国為替

国債、地方債など公共債を中心に資金の効率的運用と安定収益の確保に努めた結果、前年度末比930億円増加の4,466億円となりました。

また、貿易取引、外国向け送金及び外国通貨両替のほか、オープンもの外貨預金等の資本取引にも積極的に取組んだ結果、当年度の外国為替取扱高は、154億89百万ドルとなりました。



◆損益状況

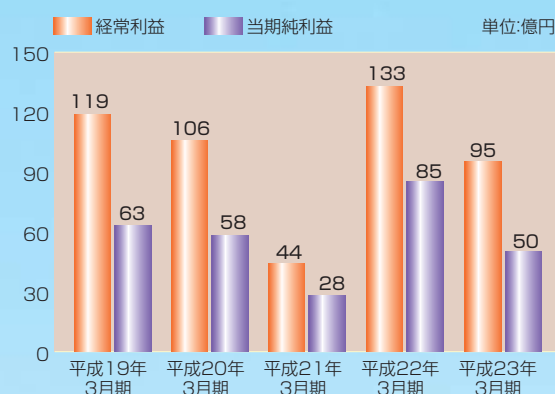
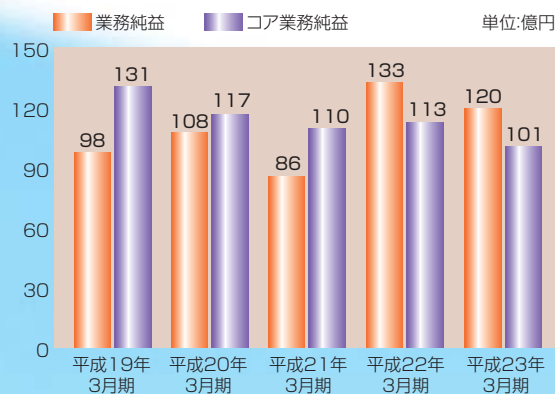
平成22年度は、経常収益は、貸出金利回りの低下により貸出金利息が減少したものの、国債等債券売却益及び有価証券利息配当金が増加したことから、前年度比5億61百万円増加の403億18百万円となりました。

経常費用は、預金利息の増加に加え、有価証券関係損失及び不良債権処理額が増加したことなどから、前年度比43億70百万円増加の307億98百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年度比38億9百万円減少の95億19百万円、当期純利益は前年度比35億44百万円減少の50億50百万円となりました。

◆自己資本比率

自己資本比率は、経営の安全性や健全性を図る指標の一つで、比率が高いほど健全な経営といえます。海外に営業拠点を有する銀行は国際統一基準8%以上、海外に営業拠点を有しない銀行は国内基準4%以上が必要とされており、当行は国内基準が適用されます。当行の平成23年3月期末の自己資本比率は、国内基準の3倍以上となる12.73%を確保しています。また、実質的な自己資本を示すTier I 比率でも12.23%と高い水準にあります。



用語解説

「コア業務純益」とは？

業務純益から「国債等債券関係損益」などの特殊要因を除いたもので、より厳密に銀行の本来業務による収益を表しています。

「Tier I 比率」とは？

自己資本は、資本金・法定準備金・剰余金などで構成される基本的項目(Tier I)と一般貸倒引当金、劣後債務などで構成される補完的項目(Tier II)に区分されます。Tier I 比率は補完的項目を除いた実質的な自己資本比率といえます。

◆格付

当行は、日本格付研究所(JCR)より長期優先債務について「A+(シングルAプラス)」の格付評価を取得しています。「A+」は20ランク中上位5番目に位置し、「債務履行の確実性が高い」とされており、当行は、財務内容の健全性について高い評価を得ております。

◆資産の健全化

当行は、資産の健全化を経営上の最優先課題と認識し、厳格な自己査定に基づき、資産の正確な実態把握と将来の損失に備えた引当処理や適正な償却などにより不良債権の早期処理に取り組んでいます。また、中小企業診断士の資格をもつスタッフを配置した専担部署(法人融資部)を中心に、お取引先の経営改善に向けた取り組みを積極的にサポートすることで、開示債権の圧縮、不良債権の発生防止に努めております。

(資産内容の開示)

金融再生法に基づく開示債権

金融再生法では、自己査定した資産を「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」、「正常債権」の4つに区分し開示することが義務付けられています。

当行の平成23年3月期における開示債権総額(正常債権を除く)は、前期比26億円減少の196億円、総与信に占める割合(開示債権比率)は、前期比0.23%減少の1.68%となっております。この開示債権に対して、引当金および担保・保証等によって84.95%(保全率)を保全しており、十分に手当しております。



(単位:億円)

	総与信額		平成23年3月期における担保等による保全額・保全率			
	平成22年3月期	平成23年3月期	保全額	担保等の保全額	引当額	保全率
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	95 (0.82%)	107 (0.92%)	107	66	40	100.00%
危険債権	106 (0.91%)	67 (0.58%)	44	36	8	65.18%
要管理債権	20 (0.17%)	20 (0.17%)	14	12	1	68.09%
小 計	222 (1.91%)	196 (1.68%)	166	116	50	84.95%
正常債権	11,409 (98.08%)	11,430 (98.31%)	貸倒実績率に基づく1年間の予想損失額を引当			
総与信額	11,632 (100.00%)	11,626 (100.00%)				

[注] 1. 信託勘定を含んでおります。
2. 総与信額には貸出金以外に外国為替与信、貸付有価証券、仮払金、未収利息、支払承諾見返を含みます。
3. 記載金額は億円未満を切り捨てて表示しております。
4. () 書きは総与信額に占める比率となっております。

用語解説

(1) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

(2) 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財務状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

(3) 要管理債権

3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

(4) 正常債権

債務者の財務状態及び経営成績が特に問題がないものとして、上記(1)から(3)までに掲げる債権以外のものに区分される債権。

リスク管理債権の状況

銀行法施行規則に基づくリスク管理債権は、「破綻先債権」、「延滞債権」、「3カ月以上延滞債権」、「貸出条件緩和債権」の総称で、単体および連結ベースでの開示が義務づけられています。

当行の平成23年3月期におけるリスク管理債

権総額は、単体ベースで前期比21億円減少の195億円、連結ベースで前期比22億円減少の207億円となっております。また、貸出金に占める割合は、単体ベースで1.70%、連結ベースで1.81%となっております。

●リスク管理債権残高(単体)

(単位:億円)

	平成22年3月期	平成23年3月期
破綻先債権額	17 (0.15%)	18 (0.16%)
延滞債権額	178 (1.55%)	156 (1.35%)
3カ月以上延滞債権額	6 (0.05%)	7 (0.06%)
貸出条件緩和債権額	13 (0.12%)	13 (0.12%)
リスク管理債権額合計	217 (1.89%)	195 (1.70%)
貸出金残高(期末残高)	11,484	11,493

●リスク管理債権残高(連結)

(単位:億円)

	平成22年3月期	平成23年3月期
破綻先債権額	19 (0.16%)	19 (0.16%)
延滞債権額	189 (1.66%)	167 (1.46%)
3カ月以上延滞債権額	6 (0.06%)	7 (0.06%)
貸出条件緩和債権額	13 (0.12%)	13 (0.12%)
リスク管理債権額合計	229 (2.01%)	207 (1.81%)
貸出金残高(期末残高)	11,357	11,414

[注] 1. 信託勘定を含んでおります。
2. 記載金額は億円未満を切り捨てて表示しております。
3. () 書きは貸出金に占める割合となっております。

用語解説

(1) 破綻先債権

元本又は利息の回収見込みがないものとして、未収利息を収益不計上とする貸出金のうち破産、会社更生等の手続開始申立てのあった債務者や手形交換所の取引停止処分を受けた債務者などに対する貸出金。

(2) 延滞債権

未収利息不計上となった貸出金で(1)、(3)、(4)以外の貸出金。

(3) 3カ月以上延滞債権

元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している貸出金で(1)、(2)に該当しない貸出金。

(4) 貸出条件緩和債権

経済的困難に陥った債務者の再建・支援を図り、当該債権の回収を促進することなどを目的に、債務者に有利な一定の譲歩(金利の減免、利息の支払猶予、元金の返済猶予、債権放棄など)を実施した貸出金。

自己査定結果と開示債権との関係(単体)

(単位:百万円)

自己査定結果(債務者区分別) 対象:総与信					金融再生法 開示債権	リスク 管理債権	引当金	保全率
債務者区分 (償却後)	分 類				対象:総与信	対象:貸出金		(引当率)
	非分類	Ⅱ分類	Ⅲ分類	Ⅳ分類				
破綻先 1,872	引当・担保・保証 等による保全部分 658	1,213	全額 引当	償却 引当	破産更生債権 及びこれらに 準ずる債権 10,776	破綻先債権 1,866	468	100.00%
実質破綻先 8,904	引当・担保・保証 等による保全部分 5,378	3,526			保全率: 100.00%	延滞債権 15,623	3,608	100.00%
破綻懸念先 6,755	引当・担保・保証 等による保全部分 2,287	2,262	必要額 を引当 2,205		危険債権 6,755 保全率: 66.18%		808	66.18% (26.14)
要 注 意 先	要管理先 2,696	担保: 1,541 信用: 1,154 461	2,234	貸倒実績率に基 づく3年間の予 想損失額を引当。 資本的劣後ロー ン(DDS)は全額 引当。	要管理債権 2,091 保全率: 68.09%	3カ月以上 延滞債権 701	204	64.74% (17.69)
	要管理先 以外の 要注意先 170,675	47,996	122,679		小計 19,623 全体の保全率 84.95%	貸出条件 緩和債権 1,389		
正常先 971,764	971,764			貸倒実績率に 基づく1年間の 予想損失額を 引当。	正常債権 1,143,045		300	
合計 1,162,668	1,028,547	131,916	2,205	-	1,162,668	1,149,328	9,475	84.00% (61.13)

[注] 信託勘定を含んでおります。